

Outer Hebrides Thrustのシュードタキライト



1. Outer Hebrides ThrustとN. Uist 島Eaval山中腹のThrust沿いに分布するシュードタキライト。多量の母岩(先カンブリア紀のLewisian片麻岩)を角礫状に含む。本文の写真1参照。

2. Harris 島南部 Rodelの変アノーソサイト—変斑糲岩岩体を貫くシュードタキライト脈。破碎—融解に伴う母岩の円礫化と回転が認められる。



3. シュードタキライトの融解—急冷組織(次ページ)。

左(a)は顕微鏡写真, 右(b)は反射電子像(BSE像)で, (1)~(3)は写真aに白枠でその位置を示す。

- (1) a. Harris島南部Leverburgh南西の珪長質片麻岩を貫くシュードタキライト脈, 石英(Q)に割れ目が発達。 b. 石英破片とその周縁部をハロー状に取り囲む苦鉄質微晶鉱物集合体。
- (2) a. 写真(1)と同じ試料。石英の融食縁や樹枝状鉱物集合体が認められる。 b. 樹枝状斜方輝石(bronzite)が成長。
- (3) a. Harris島Scaristaの変閃緑岩中のシュードタキライト(本文写真2と同じ試料)。石英の融食縁や斜長石マイクロライトが発達。 b. 一部放射状に配列する斜長石マイクロライト(暗色部: An_{41})。
- (4) a. Inner Hebrides, Tirez島東部の角閃岩を貫くシュードタキライト。斜長石の融食縁や球顆状組織が発達。 b. 写真a外側の基質部のBSE像。角閃石(magnesian hornblende)マイクロライトが成長。

(早稲田大学教育学部 高木秀雄, 詳しくは本誌15-25ページ参照)

